

(5) 意見交換（質疑含む）

意見1：・「いじめ・差別・体罰」について、目に見えているものと表に出ないものがある。

子どもが何かを感じているかもしれない状況では「わからない」としか答えられない。

・対策をしても「わからない」の回答が続くのではないか。具体的にどんな言葉掛けや対応をしているのか分かるように発信できるとよい。学校の取組が分かるほうがよい。

意見2：・職員の仕事が均一で計画性があると感じる。遅くまで職員室に電気が点いており、遅くまで教材準備をしている様子が伺える。よい施設であり、よい教育を行っていると感じる。

・「本当に子どもにとって必要なことは何か」を考えていきたい。自身の所属先の職員にもこの学校を見せたい。

意見3：・開校半年でのアンケートの結果は、人との関係性に関わる項目が高評価である。職員の方のご助力があると感じる。

・「いじめ・体罰」は見えないところである。捉え方も難しい。発信の配慮も必要である。

・「地域に開く」という点では、当方もプールを利用でき非常によかった。地域資源については、訓練士（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）の派遣も行っている。今後も地域資源を活用できていけるのではないか。ひばりフェスティバルや作品展示・製品販売も地域への有効な広報となる。

意見4：・子どもたちが楽しそうである。「やってみたい」と思える授業の内容であった。

・図画工作や美術の作品を見て、写真を見ながらの絵の描き方の手法等の工夫があり、小学部段階から中学部・高等部段階で成長が見られる。

・家庭との連携の項目の評価が高い。その関係性を続けていくといい。

・社会資源側として、環境をつくっていく必要性を感じた。

意見5：・心から楽しんで自分自身の子育てを振り返りながら授業を参観した。教材に子どもが注目しているところが素晴らしい。個々の目標が違う中で展開している授業でも、子どもたちが落ち着いている。教員も子どもも笑顔である。ここでの経験が将来に生かされており、習慣が大切であると感じた。

・高等部では個がしっかりと芽生え、生徒アンケートで「わからない」の評価もあるが、個の思いが通る経験ばかりだと、社会に出ていくにあたって、生徒が「(自分は) 何でもみてももらえる」という感覚になることを懸念する。

・高評価ばかりを求めてることで、見えなくなる部分が出てきてしまうことのないようにしたい。

・いじめは、集団の中で目に見えるものではなく、それぞれの感覚的なものは分からぬのが実情である。